

「眠催女彼～メスカノ～ 二人目」

(自慢気に)

ボクはエイジ。

比翼連理（ひよくれんり）の彼女とラブラブな誰もが羨むリア充さ。

愛されすぎてチンポの乾く暇がない日々を送ってる。ヤバい。

すでに彼女…名前はミウ…の親も公認。ヤバい。

卒業後の婿入婚（むこいりこん）も決定。ヤバい。

今は用意してくれた新居で一足早い新婚生活中。幸せすぎてヤバいっ。

全てはある日目覚めたギフト…「眠催女彼（メスカノ）」のおかげっ。

メスカノって囁くだけでボクの言いなりっ！

マンコの感度も具合も限界突破っ！

チートすぎヤバいっ!!

今のボク以上に幸せの男がいるか？

今のミウ以上に幸せの女がいるか？

いないっ。いるわけがないっ。

だから思ったんだ…。

他の女性（コ）にも幸せをおすそ分けしなきゃって。

せっかくのギフト。もっと使いたいっ！（笑）

ミウはボクの提案に賛成。

(興奮しつつ)

「眠催女彼（メスカノ）」ヤバすぎ。

ビビったのは彼女の親も賛成ってこと。

彼女候補を紹介してくれるくらいノリノリ。なんでや。

「眠催女彼（メスカノ）」は血縁にも効くのか？ 知らんけど。

とにかくヤバい。ヤバすぎる。

でも、実は二人目は決定済！ ミウの親友っ！

ボクにどストライク…。ショットカデカ女の威力よ。

彼女の名前は上北里香（うえきたりか）。

いい名前の画数は二四。

「名は体（たい）を現す」の言葉どおり、鬼美人で神かわ。

ボク調べだと…。

身長一八二センチ、体重六三キロ、バスト一〇二、ウエスト六三、ヒップ九九っ！

長身恵体を活かしバレー部レギュラー

ミウと一緒に試合を観に行ったら上手（うま）すぎヤバい。

それ以上にヤバかったのが試合後、
ミウに紹介してもらった時のゴミを見るような目！
昔のミウを思い出して勃（た）った（笑）。
付き合ってる彼がいるってのもNTR（ネトラレ）案件でポイント高い。ヤバい。

（ミウにハメながら）
おかげでその日はミウと盛り上がった。
いやいやいや毎日だわ。
エブリデイ盛り上がってたわ。
今だってミウの上だったわ。

あー…ボクよりデカイリカをバックからガン突きしたいっ。寝バックでもいいっ。
やりたい。やりたい。やりたい。
絶対やる。
やる。やる。やるっ。
リカっ。
君はボクのメスカノだっ（語尾射精）。

× × ×

わたしの名前は上北里香（うえきたりか）。
人よりちょっぴり背が高く、バレーが好きなJKだよ。
それなりに強い学校のバレー部でレギュラーなのが自慢かな。
あ、付き合ってから7ヶ月になるイケメンの彼氏がいるのも自慢…？（照笑）。
カレもスポーツやってるから話しが合うんだよねー。

なーんて、ラブラブ自慢してる場合じゃなかった。
今日の部活ーらしくないミス多すぎ。反省…っ。
理由はわかってる。
親友のミーちゃんの婚約。
やーーーーー驚いた。
彼氏がいたこと知らなかったんだけど。
男嫌いだったんじゃ？
あれ？ ミーちゃん？ ズッ友じゃなかったっけ？？
まあいいか。よくないけど。
そんなベスフレのミーちゃんがまさかの婚約っ！
学生だよ？ 早くね？

婚約者を紹介されてさらにビビった。
てか釣り合っていない。
パパ活って言われたらギリ納得できるレベル。
どこが好きなんって聞いたら、全部！ だって…。

そ、そんなぁ…。

わたしの知ってるミーちゃんはどこ…っ??

彼氏に話したら、「ベタ惚れ羨ましい」だって。

うちらじゅーぶんラブラブじゃんっ！

(駅)

ミーちゃんのこと考えてたら、駅に着いてた。

(電車)

人よりちょっぴり背え高いから空いても混んでも扉前は邪魔。

なのでわたしの定位置は奥の端っこ。

ジロジロ見られるのもウザいし。

珍しく今日はそこまで混んでない。席も空いてる。ラッキー。(SE)

定位置に座りバッグを床に置く。(SE)

(隣に座る音)

ん？

わたしの隣に誰かが座った…。

他に空いてる席あるのに、なんでよ…っ。

思っきり眉をしかめながら、そいつをにらみつける。

(リカ)「は…？」

顔を見てびっくり。忘れもしないミーちゃんの婚約者。

(リカ)「あなたミーちゃんの…っ」

彼は驚くわたしを無視。ニヤついた顔を近づけ耳元で何かを囁いてくる。

(エイジ)「(囁き) メスカノ」

(リカ)「(とまどいつつ) メス？ カノ？」

意味不明な言葉に胸の奥がドキドキする。

サービスエース決めた時以上にアがる。

(エイジ)「(嬉しそうに) 今からリカはボクのメスカノ」

エロい視線なのに胸の奥がドキドキする。

ブロック突き破るスパイクで逆転勝ちした時以上にテンアゲ。

(リカ)「(ドキドキしつつ) はあ、はあ……。カラダ、あっつ！」

とにかく胸の奥がドキドキする。
彼氏と初めてした時以上にトぶ。

(エイジ)「おめでとうりカ」

隣りに座った彼氏に肩を抱かれる。

(リカ)「(ときめきつつ) ちょー嬉しい……………！
けどっ。
ねえ、背…縮んだ??」

(エイジ)「元カレと間違ってるね？」

(リカ)「ええ…あれ……ごめっ」

(エイジ)「いーよ。気にしてない」

肩を抱くどころかぎゅうぎゅうひつついてくる。

(リカ)「くっつきすぎい…部活帰り匂うってばあ♥」

(エイジ)「(嬉しそうに) 彼女のヤバい匂いとかちょーウェルカム！」

(リカ)「ヤバいいうなア…」

(エイジ)「(楽しそうに) 彼氏にヤバい匂い嗅がせろっ」

強引にわたしの首元に鼻先をねじ込んでくる。

(エイジ)「(鼻で吸う) す〜〜〜っ」

(リカ)「(驚き&恥ずかしがる) ちょ……まつ ///」

(エイジ)「(吐く) は〜〜〜っ」

(リカ)「(恥ずかしがる) でで電車の中……っ ///」

(エイジ)「(夢中で) いい匂すぎっヤバっ (高速鼻呼吸) スーハースーハー…」

(リカ)「(恥ずかしがる) ショータァ！」

(エイジ)「(真顔) しょーた？」

(リ カ)「(慌てる) 恥ずいってば……っ ///」

(エイジ)「ボクはエイジな？」

深呼吸をとめた彼氏に真顔でツッコまれる。

(リ カ)「(慌てて) えっ? あれっ?」

(エイジ)「あー…二度目は傷ついたー」

(リ カ)「ごめっ…」

(エイジ)「まさか………コレも忘れた？」

口をとがらせたエイジはわたしの右手を掴んで股間の上へ乗せる。(SE)

(リ カ)「(驚きすぎて声が裏返る) えっ!?

しっ、知らなくはないっ……。

んんん? なんかおつきい…?」

(エイジ)「勃起してるし (笑)」

(リ カ)「(小声早口) だから電車の中っ!

でもっ……。 (SE)

ねえ……。 (SE)

おつきすぎじゃ…?」

確かめるようにニギニギ。チンポの大きさにびびる。

(エイジ)「(嬉しそうに) ボクは彼女が痴女でも一向に構わんっ」

(リ カ)「(指摘に無意識の行動に気づく) はあ……? あっ!？」

慌てすぎて思わず立ち上がる。(SE)

(エイジ)「(ニヤニヤしつつ) まだ降りる駅じゃなくね？」

わたしから顔を背ける乗客がちらほら。

見てはいけないものを見てしまった的なリアクションに恥ずか死。

(リ カ)「(真っ赤になる) ……っ」

エイジに腕を引かれ、大人しく座り直す。(SE)

(リカ)「ありがと…」

(エイジ)「代わりに立っとく。(SE)

必殺★痴女バリアーっ！

ボク以外がリカを痴女扱いするのは絶許(ぜつゆる)っ」

(リカ)「(でかい声になりそうなのを直前で回避し小声に)ちっ！ち、痴女言うなっ」

(エイジ)「リカはボクだけの痴女彼女」

そう言うと、わたしにだけ見えるようにチンポをボロン。(SE)

(リカ)「(息を呑む)ひっ!？」

(エイジ)「痴女にサプライズ♪」

チンポを公然とわいせつしながら平然とウィンクをキめるエイジにわたしのが慌てる。

(リカ)「(声抑えつつ)ばかっ……見えちゃう！」

(エイジ)「家に着くまでガマンできないリカにご褒美」

(リカ)「(絶句)なっ…っ///」

(エイジ)「痴女彼女の彼氏なら、このくらいよゆう」

エイジはうまいこと隠しながらチンポをしごき始める。

(シコシコ：始)

(エイジ)「(軽く興奮しつつ声は抑えめ)ふつーの彼女なら止める。

(リカ)「(口を覆いながら)ちょ…!？」

(エイジ)「けど、ボクのリカは違う。続けて欲しいから…ガン見放置(笑)」

(リカ)「(混乱する)ええ～～…っ」

(エイジ)「あ～～…興奮するう…」

(リカ)「わたしの彼氏こんな変態だったっけ？

いや、そうさせるわたしのが変態…？

やっばおっきい…。

いやいやっ今はそれよりも…っ」

わけわからんくなって頭ぐるぐる。

(エイジ)「(小声) でる…っ」

(シコシコ：終)

(リカ)「(驚く) !?」

半開きの唇に亀頭がむちゅっ。(SE)

(エイジ)「(小声) ううッッ!!」

(射精1)

続けてどびゅどびゅっ。口の中にダイレクト射精。

(リカ)「(プチパニック) むー…っ。むー…っ!!」

一瞬でほっぺが小リス。

口の中に出された精液の量と濃度が記録更新。金メダル射精。

(エイジ)「よしゴックン」

エイジは出し終わったチンポをサクッとしまつて勝手に命令。

(リカ)「(軽くパニックって必死に精飲) ん〜〜〜〜……シンッ!

(飲み込む) …ンがあぐぐっ」

目尻から涙をこぼしつつ、なんとか完飲。

(リカ)「(整息しつつ興奮) はあっ……………はあ……はあ…」

(エイジ)「エロ顔ヤバ(笑)」

(リカ)「へ……っ?」

言われて頬をペタペタ。いつの間にか笑っててびっくり。

(エイジ)「下はグシヨグシヨ。絶対そう」

(リカ)「え` ……………っ??」

言われてこっそりタッチ。いつの間にかその通りでビビる。

(エイジ)「さすがボクの痴女彼女♪」

(リカ)「な` ……………っ！」

(電車減速)

(エイジ)「(ニヤニヤしつつ) んー…次で下車な」

(リカ)「(感情ごちゃごちゃ) まだ降りる駅じゃないけど…………？」

(エイジ)「ボクの痴女彼女がガマンできそーにない件」

(リカ)「(凶星) ば (バカ) ……っ！」 (SE)

顔を真っ赤にして立ち上がり、エイジを肩パン。(SE)

(エイジ)「っ！」

(停車：ドア開)

(リカ)「降りる…っ ///」

よろめくエイジを掴んでそのまま電車を降りる。(SE)

(駅環境音)

駅の階段を、改札を、駆け抜ける。

(走る)

(エイジ)「(息を切らしつつ) はあ…はあ…リカっ……………待 (ま) …っ」

(リカ)「(余裕のある息づかい) ガマンできないからムリ！」

見知った駅ビルに入り、多目的トイレに一直線。

人目を避けエイジを連れ込む。

(リカ)「つーいた♥」

(ドア／開／閉／施錠)

汗だくへろへろのエイジを壁ドン。(SE)

(エイジ)「(息絶え絶え) はあ……！」

彼氏より目線が上なのは新鮮。

(エイジ)「はあ…っ…はあっ…」

(リ カ)「エイジはもっと体力つけよ?♥」

よれよれのエイジにキス。

(リ カ)「ちゅう……♥」

(エイジ)「んむっ」

(リ カ)「ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅっ♥ はあキスとまんねっ♥」

(エイジ)「(キスされる) ンちゅ、んっ、はあっ」

(リ カ)「(貪るようにキス) むっぢゅっぢゅっれろぢゅっぢゅうぢゅりゅりゅ。

ぢゅうっぢゅうっれりゅっぢゅ…っれりゅりゅりゅっぢゅっ…」

(エイジ)「(徐々に苦しくなる) …っ……っ……っ…。

んっ、ンんっ、んん——っ。ぐ、ぐるじ…っ。息できな…っ……ぢぬ…っ」

(リ カ)「(慌ててキスを止める) 死んじゃ…ダメっ！」

(エイジ)「(整息しつつ) っはあ……はあっはあっ…はあ」

(リ カ)「(心の底から) ああ……っ! よかった…っ」

ホッとしてエイジに抱きつく。(SE)

(エイジ)「(力が強くてまた息ができなくなる) ぶはっ……!? つよっつよいて
……！」

(リ カ)「(慌てて) わ………」

慌てて腕を緩める。(SE)

(エイジ)「(苦しがりつつ嬉しがる) はあ…はあ…バレー部……ヤバすぎてヤバあ…」

ほっとしてふとももに当たってるモノに気づく。

(リ カ)「あー… (嬉しそうに) こっちはまだ苦しそっ♥」

エイジの股間のテントをさわっ。(SE)

(エイジ)「あっ」

すかさずぺたんこずわり。(SE)

エイジのズボンのベルトに手をかける。(SE)

(エイジ)「(わぎとらしく&嬉しそう)痴女に襲われるう…ヤバあ」

(ベルト外す)

(リカ)「エイジ痴女好きすぎ…っ♥」

(ズボン脱がす)

(エイジ)「エロい彼女も好きっ」

(ファスナー)

(リカ)「わたしのこと好きすぎっ (笑) ♥」

(ズボン下ろす／ぼろん)

勢いよく飛び出るチンポ。

(エイジ)「あーあボロンされちゃった」

エイジは腰をカクカク。

チンポをぶるんぶるん見せつけてくる。

(リカ)「(驚き&嬉し)はわあ……やっぱデカイ！」

(エイジ)「(からかうように)ボクの痴女はデカチン好き (笑)」

(リカ)「まだわかんない…っ」

(エイジ)「ほー…ん。慎重痴女なりカには……………こうだっ」

エイジはチンポでわたしの頬をビタビタ叩いてくる。

(SE)

(リカ)「(叩かれるたび興奮)あ♥(SE)う♥(SE)ん♥(SE)

あっ♥(SE)うっ♥(SE)んっ♥(SE)

あぁっ♥ (SE) ううっ♥ (SE) んんっ♥」

右に左にチンポピンタ止まんない。

(SE)

(リ カ)「(興奮しつつ無意識で啜え込む) はぁ……♥ はぁむ…っ♥♥」

(エイジ)「(啜えられて驚く) おほっ?!」

(リ カ)「(口いっぱいのに驚く) もっ…? もごご…っ??」

(エイジ)「(感じつつ) デカチン好きすぎヤバ…!」

(リ カ)「(ゆっくり根本まで啜えながら) なんか……っ。

(ゆっくり引き戻す) ……いった…っ?

(根本まで啜え込む) 口……いっぱいっ。

(啜えたまま整息) はぁ…はぁ。

(亀頭まで引き戻す) ……たぁいへん (大変)。

(啜えたまま整息) はぁ…はぁ…はぁ。

(根本まで啜え込む) でも……っ。

(亀頭まで引き戻す) ……クセになる♥

(激しく上下) じゅぷじゅっふ♥ じゅっぷじゅっふ♥ ぢゅっぷぢゅっふ♥」

(エイジ)「(感じつつ) ほおおっヤバっ!」

(リ カ)「(啜えたまま整息) はぁ、はぁ、はぁっ♥

(カリ首まで往復しつつ) コツ…わかつ…た…かもお…っ♥

(深く啜え込む) じゅっ、じゅぞぞぞ……っ♥

(啜えこんだまま顔をねじねじ) ぢゅ…ぢゅ…ぢゅ…っ……ぢゅ…っ♥」

(エイジ)「(感じつつ) おおおぞれっヤバぁ…っ!!」

(リ カ)「(嬉しそうに引き戻しながら) くるしい～～けど、たのし♥」

ぺろりと舌を出し、その上にチンポを載せてみる。(SE)

(リ カ)「(楽しそうに) デカチン飴っ…♥ (楽しそうに) (ペロ舐めしつつ) れるれる♥」

(エイジ)「あぁっあっ」

(リ カ)「(楽しそうに) (ペロ舐めしつつ) れるれる…♥」

(エイジ)「(感じつつ) おっおおっ?」

(リカ)「(楽しそうに裏筋ペロ舐めしつつ) デカチンまんまっ♥
れりゆれりゆ♥ れるれるれるれるれる……♥」

(エイジ)「(感じつつ) おっおっ?! なんこれっ、(嬉しそう) 痴女フェラヤバっ
……！」

(リカ)「んんん〜…ガチな痴女なら〜…こうっ♥」

空いてる手でブラウスのボタンを外すと、(SE) 黒のスポブラがずんっ。(SE)

(エイジ)「おお……っ！」

(リカ)「からのお……ぺろんっ♥」(SE)

スポブラを上にはずらすと、99センチのオッパイがぶるんっ。

(エイジ)「(絶句) でっ (でかいの「で」) …！」

(リカ)「バレーには邪魔すぎ。エッチには最強♥」

(エイジ)「(興奮して無口から早口) 〜…っ!
ながちちっヤバっ! 薄ピンでか乳輪っヤバっ!
ふおお……リカパイエロすぎヤバっ！」

興奮しまくるエイジは爪で乳首をカリカリしてくる。

(カリカリ SE)

(リカ)「(感じつつ) ちょっ♥ まっ♥ あっ♥
いっ♥ それっ♥ いいッ♥ カリカリっ♥ 好きっ♥ かもっ♥
あっ♥ あっ♥ ああっ♥」

(エイジ)「(興奮しながら) 感度もよすぎっヤバっ！」

(リカ)「(感じつつ) エッ、エイジだって感じやすい…クセにっ♥
(高速舌ペロ) れろれろれろれろれろれろ……♥」

(エイジ)「(気持ちよくてカリカリ止まる) ほあっ裏筋っヤバっ！」

(リカ)「(ニヤニヤしつつ) 裏筋だけかなあ…♥ (語尾啜える)」

(エイジ)「(感じつつ) んほっ」

(リカ)「(カリ首まで浅く往復: 徐々に早く)

ぢゅ…ほ♥
ぢゅほぢゅほ♥
ぢゅほぢゅほぢゅほ♥
ぢゅほぢゅほぢゅほぢゅほっ♥」

(エイジ)「(感じつつ) はあっ! ヤバヤバそれヤバっ。
リカっそれヤバッ……ヤバヤバヤッバァアアっ! (語尾射精)」

(射精2)

(リカ)「(口内で受け止める) んんンッ!♥ んむー…っ。むー…っ。
(飲み込もうとする) ン……ンンッ。(飲み込む) …ンがあっ…ぐんっ。
(離す) ぢゅ、ぽんっ♥
(整息しつつ) はあ…はあ……♥
エイジのチンポ…デカチンなのにヨワヨワ♥」

(エイジ)「(余韻に溶けつつ) はあ……はあ……リカフェラ…ヤバ…っ」

(リカ)「隙あり…っ♥」

オッパイを下から掴むように持ち上げ、デカチンをサンドウィッチ。(SE)

(エイジ)「(歓喜) ふおお。つきたての餅パイに食われたっ」

(リカ)「(楽しそうに) エイジのデカチン、見えんくなった♥」

(エイジ)「(感触で我に返る) パイ、ズリ……!」

(リカ)「(嬉しそうに) 二回出したのに…ビンビンだ…っ♥」

右と左のオッパイを交互に上下。挟んだデカチンをズリまくる。

(パイズリ)

(エイジ)「(狂喜) んほおっ!? ヤバっ……!!」

(リカ)「(楽しそうに) ガマン汁と精液でめっちゃすべるっ♥
(興奮しつつリズムカルに) むにゅ♪ ふにゅ♪ むにゅ♪ ふにゅ♪
むにゅにゅ♪ ふにゅにゅ♪ むにゅむにゅっ♪ ふにゅふにゅっ♪」

(エイジ)「(溶ける) もちもちパイズリっヤバっ!」

(リ カ)「エイジの顔お♥ かわゆっ♥ も…っとかわいくなあれっ♥」

おっぱいの谷間から亀頭をにゆるん。(SE) こんにちわさせる。

(リ カ)「(ペロリつつ) すかさずっぺろぺろっ♥

(亀頭をベロベロ舐めつつ) べろにゆるにゆるにゆるにゆるにゆるにゆる♥」

(エイジ)「(蕩ける) おあっおうふっおうっおおうっヤバいやバいつ……！」

(リ カ)「先っちょっねじねじっ♥

(鈴口を舌でほじほじ) にゆりにゆりりっにゆにゆんっにゆりりりりりゆりゆりゆるっ♥」

(エイジ)「(蕩ける) おほっ鈴口っほじほじっあっあっヤバっおっおっおっヤバヤバっ……！」

(リ カ)「(亀頭を舐め回す) れりゆっれろれろっれろろろろっれろんっ♥

(亀頭を吸い上げる) ぢゅぢゅぢゅぢゅぢゅっぢゅっぢゅっ♥

(鈴口を吸い上げる) ぢゅうううううううっ♥」

(エイジ)「(気持ちよくてうめく) ほあっ、ふうっ、ほおっ、はあっ、んおっ、ヤバッ」

(リ カ)「(ペロペロしながらパイズリ再開) またイケっ♥ イケイケっ♥ ぺろん♥ れろれろっ♥ イッちゃえ…っ♥」

(エイジ)「おあ〜〜〜…っ餅パイに搾られ…っ!! (語尾射精)」

(射精3)

(リ カ)「(顔射されながら) ああぶっ♥ んわわ♥ 三回目っ♥ なのにつ♥ すっご♥」

フェラる舌を弾いて顔面に精液スパイクがキマる。

(エイジ)「(止まらぬ衝動におののく) ぐっ! うあっ! 出る出るっまだ出るっ……！」

(リ カ)「(浴びながら) へあっ!♥ にやっ♥ わわっ♥ 顔っ♥ あつつ…♥」

(エイジ)「(余韻に呆ける) はあっ、はあ…っ、餅パイっ…搾りすぎヤバい」

(リ カ)「はわあ…!? 目え開けらんない…っ。」

(拭いながら)

うっわ……ザー臭すご…っ♥

(匂いを嗅ぎながら蕩ける)

(鼻で嗅ぐ) スン…スン…っ♥

オスの匂〜〜〜い♥

(鼻で吸い込む) す〜〜っ♥

(口で吐きながら) はあ〜〜…♥

超お…オスの匂〜〜〜い♥

(鼻で吸い込む) す〜〜っ♥

(口で吐きながら) はあ〜〜っ♥

エグう……♥

(鼻で吸い込む) す〜〜〜っ♥

(口で吐きながら) はあ〜〜〜っ♥

エッグう…っ♥

(鼻で吸い込みむ) す〜〜〜……♥

(口で吐きながら：匂いがオスすぎて甘イキ) はあ` あ〜〜……ア` っ!♥

(エイジ)「(唾然としつつ) リカ……??」

(リ カ)「(驚きつつ) か……軽くイッた…♥♥」

(エイジ)「(悦びつつ早口) ぶっかけたザーメン匂ってイクとか…ガチで痴女すぎ最高おヤバいつ…!」

(リ カ)「(スイッチが入る) オスは……精液だけ…?♥♥」

ふらふら立ち上がり、壁に手をついてお尻を向ける。

(リ カ)「オスのデカチンでイキたいっ……♥ はやくう…♥」

(催促壁叩き)

(エイジ)「(興奮&嬉しそうに) 痴女がメスになったっヤバいつ」

エイジはわたしのスカートをガバッ。(SE)

(エイジ)「(興奮&嬉しそうに) リカの生尻 (なまじり) っ!」

(叩く)

(リ カ)「(嬉しそうに) やぁんっ♥」

(エイジ)「(興奮しつつ) スポーツしてる尻エッロ!」

(左右交互に叩く)

(リ カ)「(嬉しそうに) あん♥ あん♥ ひゃん♥ はあん♥」

ぺしぺしされてあそこがぷしゅぷしゅ。ショーツがぐしょぐしょ。

(リ カ)「(興奮しつつ) あ…っ!？」

ぐしょ濡れショーツに硬い感触。(SE)

(リ カ)「(興奮しつつ) 当たってる♥」

(エイジ)「(興奮しつつ楽しそうに) 当ててんよっ」(SE)

(リ カ)「(感じつつ徐々に焦れる) はあっ♥ 硬いのお♥
ああっ♥ あんっ♥ ひい♥ んあっ♥ グリグリっ♥ しすぎっ♥
はあ♥ やんっ♥ ンもお♥ ばかっ♥ 入れろっ♥」

(エイジ)「(興奮しつつ) ガマンできないメス…ヤバ…っ」

(リ カ)「(感じつつ煽る) ザコオスう♥ 焦らすなっ♥ 早くっ♥ 早くう♥」

(エイジ)「(歓喜に震える) クソメスがあ…っ!」

エイジはぐしょ濡れのクロッチをずらし、ガマン汁マーライオンのデカチンをズブリ。

(挿入)

(リ カ)「(よがる) お♥ ほおおおおっ……♥
〜〜っんううっん?!♥♥」

デカチンの亀頭がにゅぷぷ。

膣口からゆっくり愛液を押し出しながら入ってくる。(SE)

(エイジ)「(興奮しつつ) ほあありカマンきつつ…!?
カリ首っ押おおし返され……ヤバっ!」

エイジは腰をぐいっ。力づくで突き入れてくる。(SE)

(リ カ)「(よがる) ひあっ♥ ザコオスのデカチンきたあっ……♥♥」

(エイジ)「入口ンとこカリつめちゃ引っ掛かかるっヤバっ」

エイジはオマンコの具合を確かめようと、挿れたばかりのデカチンを引き抜き、すぐにまた挿れる。

(リ カ)「(SE) (抜ける：悲) ああ…っ♥

(SE) (入る：喜) あひっ♥ ぜんぜんザコじゃなっ♥♥」

(エイジ)「ヤッバ! キッツっ……! クソメスマンコヤッバ!!」

エイジは先っちょだけぬぼぬぼ。(SE)

尻肉をこねくりながら、何度も亀頭を出し入れしてくる。(SE)

(リ カ)「(よがる)

ひんっ♥ はあん♥ ひいっ♥ ああんっ!?!♥ ぬぬぼぬぼ好きっ♥♥

んほおっ♥ おおおっ♥ おんっ♥

あゝ あっ♥ あんっ♥ あゝ ンっ♥ ごれっ♥ 好きっ♥♥」

(エイジ)「ほおっ! おおっ! おほおっ! ヤバっ! これヤバっ!

亀頭おヤバっ! ヤバっ」

気持ちよくて勝手にお尻が突き出る。

ちょうどぬぼったタイミングにドンピシャ。(SE)

(リ カ)「(驚きつつよがる) おっぐ (奥) っ?!♥ デカチンのスパイクっ!?!♥♥」

(エイジ)「おゝ っほっ!?! ぎもっぢい〜…!」

エイジはゆっくりデカチンを引き抜き、もっかい奥までずっぷし。(挿入)

(リ カ)「(よがる) おゝ あっ♥」

(エイジ)「おゝ おっほ……!」

デカチンに子宮口を叩かれる。

(リ カ)「(よがる) ブロックむりっ…♥♥」

止まらない。叩かれまくる。(SE)

(リ カ)「(よがる) あゝ ふっ♥ おゝ ぐ (奥) っ♥ おゝ ぐ (奥) うっ♥♥

おゝ ほっ♥ あゝ あんっ♥ あゝ あ♥ ダメっ♥ 負ける♥ らめえっ♥」

(エイジ)「おゝ っ! リカっ! リカっ! リカっ! リカっ! リカア!

おゝ っ! おっ! おゝ っ! おゝ っ! おゝ っ! 出るっ!!」(SE)

(リカ)「(驚きつつよがる) お` ほお!!♥」

子宮口を突きあげられ絶叫。

(射精4)

(リカ)「(よがる) でっ、出てるっ!♥♥ ぎもっ…ぢい!!♥♥」

(エイジ)「出る出る出るっ! ヤッバ……っ!」

(追い射精)

(リカ)「(よがる) お` おっっ♥ はあ…っ♥ ンほお` お!♥ (語尾潮吹き)
ああ…っ♥ またイッた…♥♥」

エイジに腰を押し付けられたまま、お尻がグリグリ。勝手におねだり。

(リカ)「(余韻に蕩けつつ) もっ!♥ もっとお…っ♥ もっと出せえ……っ♥」

(エイジ)「(驚きつつ興奮) リカあ…??
ボクの彼女…孕みたがりすぎ…ヤバあ」

エイジは負けじと腰を押し付け返す。
亀頭がグニグニ。子宮口にタッチプレーをキメる。

(リカ)「(よがる) あひっ!?!♥ な` っ♥ きもぢいっっ♥」

(エイジ)「からのお…っ」

(チンポを抜き再挿入)

(エイジ)「リカ…っ」

(リカ)「(よがる) あ` ひっ!♥
あ` っ♥ な` っ♥ ちょっ♥ まっ♥
あ` っ♥ はあっ♥ あ` あっ♥ はあんっ♥
クイック♥ むりっ♥ ひいん♥ あひっ♥ ひゃんっ♥ はあん♥
スパイクっ♥ ダメっ♥ お` っ♥ お` おっ♥ お` っ♥ おおん♥
お` っ♥ お` おっ♥ お` っ!?!♥ おぐ(奥)っ♥ しっこっ♥
らめっ♥ あっ♥
らめええっ♥ あ` あっ♥
あ` あ……♥ イキまくる…♥ 潮おとまらっ……♥」

デカチン連打気持ちよすぎ。手から力が抜けて体を支えられなくなる。

(リ カ)「(驚きつつ) あ……?!」

ずるずると床ペロ。(SE)

(リ カ)「(チンポが抜けて：悲) あぁんっ…?!」

(エイジ)「(チンポが抜けて：驚) リカぁ? 逃げんなっ」

(リ カ)「(チンポが抜けて&エイジに煽られ：怒) はぁ…っ?」

ごちゃるエイジをひょいっと持ち上げ、便座に座らせる。(SE)

(エイジ)「(目を白黒させる) おうっ?!」

エイジにまたがり、(SE) デカチンを掴む。(SE)

(リ カ)「ちょお気持ちいいわたしの……デカチンっっ!!」

(挿入)

亀頭を膣口にあてがい、(SE) ずぶり。(SE)

(リ カ)「(よがる) あ` あ…っ♥ い` いっ♥」

(エイジ)「(感じる) お` っお……っ」

(リ カ)「(よがりつつ) バックもよかったけど…♥ (SE)

顔みながらあのデカチンっ♥ もっと♥ (SE) いいっ♥ ちゅ♥」

(エイジ)「(感じつつ驚く) あっ…」

(リ カ)「(キスしながら) キスもできるし♥

ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅっ♥ ちゅう♥

キス好き♥ ちゅ♥ 好きっ♥ ちゅ♥ ちゅっ♥

エイジも好き♥ ちゅ♥ 大好きっ♥ ちゅ♥ ちゅっ♥

マジ好きっ♥ むちゅう♥♥」

キスしながら腰をぐりぐり。

(エイジ)「(気持ちよすぎて慌てる) お` っお` っおほおっ、それヤバっ! ヤバいやバ
いっ!」

(リ カ)「(すっとぼけ) ん? ちゅっ♥ んんん…っ??♥」

(エイジ)「(気持ちよすぎて慌てる) 腰…っ！」

(リ カ)「ちゅっ♥ あ〜〜……っ♥ ちゅ♥ 動かしてた?♥
ちゅっちゅ♥ ああっ、ちょー動いてたっ♥ ちゅっ♥ ごめっっ♥♥」

(エイジ)「(ガマンしつつ) で…出るっ! ヤバいっ!!」

(リ カ)「(蕩けつつ) いいよっ♥ 出してっ♥」

ぎゅうっと密着。大きなヒップを意識して動かす。

(リ カ)「(蕩けつつ) いっぱい♥ 子宮 (ナカ) に出してっ♥」

デカチンをマンコキ。エイジをイカせるための動き。

(エイジ)「リッ、リカア……ツッ! イグ…っ!!」

(射精5)

(リ カ)「(蕩けつつ) あっ♥ あゝ♥ ああっ♥ でたっ♥ でてるっ♥ うれしっ♥
オマンコっ♥ おぐ (奥)っ♥ びちゃびちゃっ♥ 当たってるあ♥♥
おあゝっ♥ ごくっごくっ♥ 精液っ飲んでるっ♥」

(エイジ)「(気持ちよくて無意識に口をつく) はっ孕め孕めっ…！」

(リ カ)「(蕩ける) はっ孕む孕むうっ!♥

孕んで嫁になるう…!♥

エイジ♥ 好き♥ ちゅう♥

エイジっ♥ 好きっ♥ ちゅうう♥

エイジいっ♥♥ だいしゅきい♥♥ ちゅっちゅっ♥♥」

(エイジ)「(感じつつ驚く) ほあっ?! ぐっ、ぐにぐにっ動っ……ぐうっ…!
め……めちや締まっ!? (語尾射精)」

(射精6)

(リ カ)「(蕩けつつ) おゝ ほおっ…♥ また出てるっ♥ すごっ♥ ぜったい孕む♥」

(エイジ)「(よがる) おゝ おほおっ……! 搾 (しば)っ! られっ! るううっ!!

お` おほおっ……！ ヤバっ出る出るるっ……！」

(リ カ)「(蕩けつつ感激) ああ` っ……♥
ミーちゃんより先にママになっちゃっ……♥
(首筋にキスする) ちゅっ♥ ぢゅうううっ……♥」

(エイジ)「(首筋性感帯) あひっ!？」

(リ カ)「(蕩けつつ驚く) えっ♥ 首弱っ♥
(ノリノリでキスしながら)
ちゅ♥ ちゅっ♥ かわゆっ♥
ぢゅ♥ ぢゅっ♥ たのしっ♥
ぢゅっ♥ ぢゅっ♥ ぢゅっ♥
ぢゅううううううううう……♥」

(エイジ)「(キスで蕩ける)
あひっ…ちよっ…あっ…うあっ! くびやばっ!
バッ…まてっ…ちよ…むりっ。あっひっ!
あっ! あっ! あっ!
あ` ~~~~っ!!」

(射精7)

(リ カ)「(よがりつつ) お` っほおおおおっ……♥
またでたっ♥ でてるでてりゅっ♥
スゴ♥ ヤバ…っ♥♥
お、おっ♥ おおおおおおっ♥♥♥ イクっ♥♥」

(SE)

びゅうびゅうされながら、わたしもびゅうびゅう。
つながったところがグッチョグチョ。

(エイジ)「(蕩けつつ)
(吸う) はあっ! (吐く) はーっ……!
(吸う) ヤッ…… (吐く) バーー……っ!!
あひっ……! まだ出る……!!」

(追い射精)

(リ カ)「(よがりつつ) お` っお` っ♥ まだでてりゅ♥
デカチン♥ 種撒きすぎい♥」

(エイジ)「(蕩けつつ) リカさいっこお (最高) ……一生ボクのものっ…………！」

(リ カ)「(よがりつつ)
エイジも♥ デカチンも♥ さいこお♥♥」

デカチンを咥えこんだオマンコをグリグリ押し付ける。(SE)

(リ カ)「(よがりつつ)
永遠に♥ だせっ♥ あう♥ あひ♥ ひん♥ ああ♥
どぴゅどぴゅだせっ♥ はあっ♥ あひっ♥ ひゃん♥ ああっ♥」

(エイジ)「(蕩けつつ) バッカっ……搾りすぎっ……ヤバっ！」

(リ カ)「(よがりつつ)
デカチンっ♥ きもっ♥ ちいっ♥ (気持ちいい)
あゝ あっ♥ ひゃん♥ んひっ♥ あゝっ♥ はあっ♥ あひゃっ♥
一生っ♥ わたしのものお…っ♥♥ あっあゝ ーっ!!♥♥ (語尾イキ)」

(エイジ)「(蕩けつつ：否定から肯定 (懇願))
搾んなっ…………搾れ…………ええっ！」

(追い射精)

(リ カ)「(よがりつつ) きっきぢゃあー♥♥」

(エイジ着信：独特メロディ) (ミウ着信)

(エイジ)「……ミウ……っ!？」
(リ カ)「ミーちゃんっ？」

(ミ ウ)「こちらでしたか…………♥
エイジ様。(SE) お帰りが遅いのでお迎えに上がりました♥」

慌ててエイジの上から降りる。(SE)

(トイレの扉：解錠／扉：開く)

(ミ ウ)「リカさんお相手ありがとう♥」

制服姿のミーちゃんに頭を下げられる。

(リ カ)「(感動しつつ) エイジすごかった…！」

股間から精液を垂れ流しながら、ミーちゃんの両手を取ってブンブン。

(エイジ)「リカマンにめっちゃ絞りとられた……ヤバいっ」

(リカ)「(鬼照れ) エイジいつ…！」

(ミウ)「よかった…♥ エイジ様の彼女として仲良くやっていけそう♥」

(リカ)「彼女…？ ただのメスカも？ (笑)
エイジのデカエイジ最&高すぎたよ…♥」

(ミウ)「(照れる) だよね…♥ エイジ様…立派なおスすぎ………///」

(リカ)「ミーちゃん…メスカ仲間♥」

(ミウ)「リカさん、これからお願いしますね♥」

(リカ)「うんっ♥」

(エイジ)「(興奮しつつ) あ～～…萌えるっ！ イイっ!!」

抱き合うわたしたちをニヤニヤ見つめるエイジ。かわいい。

× × ×

二人目のメスカノもうまくいった。

リカとの性活もヤバそうでヤバい。

ちな、リカと駅で別れた後、

一緒に帰宅したミウに自分の番とばかりに襲われたはまた別の話。

正妻ヤバい…。